

鳩摩羅什像前にて

題材法話

*前号からのつづき

○無辺光Ⅱさかいのない光

つぎは「無辺光」です。無辺の辺は「ほとり」「さかい」という意味です。から、「ほとり、さかいのない光」という意味になります。

私たちの世界では、よくものを区別したがり、貧しい者「一富める者と貧しい者」「一賢い者と愚かな者」「一男と女」といった具合です。

先ほど（前号）のたとえで申しますと、医者「一皆さんの病氣は治しますが、女性だけです。」とか「小児科医です。」と云われたら、

では、「間違いなくこの私が救われる世界」ではなく、

一切の区別なく、平等に働きかけてくださるのが、「無辺光」という阿弥様の光の働きのなのです。



○無碍光Ⅱさわりのない光
光の働きです。「無碍光」という

「無碍の碍」とは「障害」「さわり」という意味で、この光の働きといふ意味になります。一般的に宗教の救いといふのは、ほとんどの条件付きであり、一定められ戒律を守った者とか、神の意志にかなう者などといった条件です。

獲得した者とか「信者を多くするあやしげな宗教は、もはや宗教とはいえないでし

ようが、仏教でも自力聖道の教えをはじめとして、やは

りさとりを得るためには、厳しい条件が付きます。い

のには一切条件が付かないのです。どんなに悪人といわ



まれば変わることができるよう。歎異抄の中で親鸞聖人が

「念仏者は無碍の一道なり」と仰るのはこのところ

です。さきほどの医者のたとえでいいますと、「皆さんの病氣は治しますが、皆さん

一度も嘘を付いたことのない人に限ります。」などとい

われればこの私は絶望です。けれど阿弥様の働きの

は、一切の条件が付かないのです。ひとたび光の内に入れば、これまで



のさまた菩薩さまが沢山おられます。けれども阿弥様の光の前

にあつては「みなことごとくおおわれ、さながら墨のごとくなり」といわれる

ように、他の仏さまのどのきかけなくださるのが阿弥

陀様なのです。お経には「諸仏諸神（全ての仏様や神様）がそろつて阿弥陀様を讃えておられ

る」と述べられて、一病氣の貴方を救う」と云う医者

が居るのでは「よし」とい疑心があれば、やはり「間違



（7月例会住職法話より）